

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2772001604		
法人名	株式会社 住装		
事業所名	グループホームあびこやすらぎの里		
所在地	大阪市住吉区我孫子2-1-18		
自己評価作成日	平成28年10月5日	評価結果市町村受理日	平成28年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成28年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が日々の生活の中で、楽しく、元気に、過ごせることを第一に支援していますが、できること、する事をもっともっと引きだして1日を充実できるように取り組んでいます、また毎月の新聞はもちろん、メールを利用してほしいとの家族様の対応にも答え日々の暮らしの中で早急に家族様の耳に入るような支援もしています、施設的环境整備も行いフロア内と玄関先に金魚を飼育し入居者様にエサやりを任せています。施設周辺には一緒に花壇を作り花を植えたり野菜の収穫なども行いそれを一緒に調理して食すということもしています。医療連携も密になり、緊急時の対応も十分に支援できるようになりスタッフ一同が同じ目標を持って誰一人欠ける事のない離職率0で頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、平成16年11月に、2階建ての1~2階部分に2ユニットで開設した。1階にはデイサービスが在る。ケアの重点を、利用者を第一に、利用者の全ての介護ニーズに即時対応を旨とし、利用者の全てを受容するケア。現任管理者就任後約4年間に亘り、職員の離職率ゼロを継続中であり、利用者との人間関係が厚い信頼と絆で結ばれ、専門性豊かな職員が利用者と共に「援助をエンジョイ」する関係の実践がある。日常的には、利用者の残存(潜在)能力を引き出し意欲を活性化するために、金魚の飼育の当番制、農園の野菜・花・樹木のお世話、キッチンでの調理、配膳等の準備の協働等の実践がある。理念を、家庭的な雰囲気の中で、皆様の人格を尊重しその尊厳を守り「安心」「安全」「満足」をモットーに、地域、家族の皆様方の協力を得ながら、質の高いサービスを目指します。としている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あびこやすらぎの里は入居者様の人格を尊重し、その尊厳を守り「安心」「安全」「満足」を日々業務に入るように周知しています。安心・安全・満足・は入居者様に限らずスタッフも全員が共有し意識づける様に取り組んでいます。	基本理念を「家庭的な雰囲気の中で、皆様の人格を尊重しその尊厳を守り、「安心」「安全」「満足」をモットーに、地域、ご家族の皆様方の協力を得ながら、質の高いサービスを目指します」として、玄関に理念を掲げ、定例会議や研修でも理念を話し合い、全職員が理念を共有して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間を通じて近隣の園児さんたちの訪問や、地域の行事、夏祭りや年末の防犯見回りなどに参加し交流を深め、施設での行事への参加も推進しています。また消防訓練など、近隣住民への参加をお願いしています。	町会に加入し地域の各種の催事に積極的に参加している。毎日の近隣の散歩での挨拶・会話、幼稚園児の訪問や運動会への参加、夏祭り、敬老会、消防訓練の地域住民への参加要請やボランティアとの歌、民謡ショー等での交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に限らず、地域での行事の手伝いや、近隣の団地の清掃など、積極的な参加で地域住民の方々に顔見知りを作れるように取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は地域包括支援センター以外にも住吉区のグループホームの管理者様にも参加していただき、意見交換を行い、入居者様はもちろん家族様の出席も毎回お願いし参加していただける様になりました。	平成27年度は、年6回開催して、延べ33名の参加があった。参加者は、利用者代表、家族代表、地域包括支援センター職員、町会副会長、知見者(外部施設)、管理者、計画作成担当者等の参加で、事業所の運営全般について、双方向的な会議を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	住吉区のグループホームネットワークへ所属し、空床状況や入居希望者への連携・支援の取り組みも行い、災害時の要援護者支援の取り組みにも今回登録させていただきました。	日頃から、市の担当者とは相談・情報交換・指導を受けながら協力関係を築いている。運営推進会議時には、地域包括支援センターの職員とケアサービスについての情報交換等を行い、サービスの質を向上させるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の19:30～翌朝の6:00までは施錠していますが、そのほかの時間帯は屋外からの侵入対策として照明の点検、等を実施しています。身体拘束は危険行為がない限り行っていません但し、家族様の要望で使用する事はあります。	全職員は身体拘束をすることの弊害は十分に理解している。定期的に、身体拘束排除や虐待防止に関する研修を実施し、身体拘束・虐待ゼロのケアに取り組んでいる。日中は玄関は施錠はしないで、出入りには即応体制をとり、見守りを重視している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の身体状況の確認は日々行い、変化を見逃さない様に周知し、虐待に関する研修の機会を持ちたいと思います。どこまでが虐待なのか、の周知も一緒に学んでいける様にしたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	毎年、権利擁護について研修を行っています。職員全員の参加を徹底し介護現場での業務に活かされるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際の契約にて、説明と理解を得ています。不明な点が無いように十分な説明を心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が気軽に足を運んでいただけるように明るい環境にしました。意見箱の有効利用ができる様に準備しました。	苦情相談窓口を設置して意見・苦情・不安への対応をしている。毎月「やすらぎ便り」を発行し、利用者の日常生活を報告している。各種行事案内もその都度案内書を送付して参加を呼びかけている。家族の訪問時や運営推進会議時でも意見や提案を傾聴している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開催し、意見交換を行い、困っている事、疑問点、優先順位の目的など職員のストレスがたまらない様に整えたいと思います。	定例会議を開催して職員の意見・提案等を聞く機会を設けている。管理者は、日常的に職員との意思疎通を図り、日常業務の見直し、各種行事、ケアの知識や技術等の話し合いを行ない、個人的な悩み等も話し合い、動機づけやスキルアップに取り組んでいる。	今後は、全職員が月1回は外部研修等で最新の認知症ケアの知識・技術を習得出来る様な、職場環境を作るための取り組みが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境にはなっていますが、職員の向上心や、スキルアップをしたいという気持ちにさせるような環境にはなっていないと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務的に難しい事もありますが、外部研修は月に一回はできる様に現在取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部研修の際には他の施設の職員にも声掛けを行い一緒に研修をするように管理者同士で取り組みをしています。またグループホームネットワークの会にも参加し地域の情報共有などを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際に家族様の意見を拝聴しながらも入居者様の思いや今後の不安などを受け止める様に努め、十分に時間を取り理解できるような関係性をつくっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時はお互いが不安を持っていると思います、お互いが安心して生活できるような取り組みとして、面会時間の自由や外出、外泊の有無も伝える様にしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス時に必要な支援は優先していますが必要としている支援についても十分に相談をしながら、より良い支援ができる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の調理や洗濯物等を一緒にして頂いたり、自身の居室内の掃除をお願いするなど、できる活動を優先して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活状況など毎月のおたよりで報告するとともに、キーパーソン以外の家族様への携帯電話でのメール通信を行い(希望者)面会時に家族様の思いや意見を傾聴しながら対応しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人さん、遠方からの友人さんも面会に来られています、入所前まで利用していた、服やさんへ出向き買い物をされたり、セール時にははがきを頂き、買い物に行くようにしています。	利用者の生活歴や家族からの情報を収集して、利用者の従来からの日常生活の継続性を確保した支援をしている。親しい友人、知人、親族、同級生、従来住んでいた近隣の人等の訪問や馴染みの図書館、商店での買い物、喫茶店、公園の散歩、お墓参り等や家族との外食等での支援がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもりがちな入居者に対しては声掛けを行い、他の入居者と一緒に散歩に出かけたり、お茶の時間にグループワークとしてスタッフが中に入り昔の話題を思い出していただくように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約は終了するが、施設の近隣で入院されている際、家族様が遠方で面会等が困難な時の対応や、相談等はいつでも対応する様に支援しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設の生活より自宅で住みたいという気持ちを持ったまま入所にいたり、困惑されている入居者様に対し、十分なケアを行いながら、理解していただけるように対応しています。	アセスメントシート(利用者基本情報)、日々の関わり、利用者の言動等から、利用者の生活歴や暮らし方の希望・意向を把握している。把握しづらい面については、家族との意思疎通を図り、家族から情報を収集して、利用者の自己決定を促がす支援の取り組みがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅に近い施設生活を目指すため、馴染みのスーパーやクリーニング店等の活用に取り組んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りなどで、個々の状態観察はもちろん早期発見、精神的なケア、できる事の活動に取り組んでいます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングなどをスタッフと一緒に共有するとともに、必要である支援などの意見交換、話し合いで計画書を作成、家族様の面会時にも意見交換を行い、共有、確認するようにしています。	アセスメントシート(利用者基本情報)、診断書、生活記録、介護経過記録、業務日誌、本人、家族、職員等から各種個人別ケア情報を収集して、介護計画書を作成する。見直しは、毎月職員会議を行い、施設介護経過記録を基に、モニタリングシートで毎月評価を実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の活用で、日々確認、申し送りの徹底、気づきなどの周知をそれを集約しながら個々の実践につなげていける様に徹底しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の協力で受診などもありますが、不都合な際の支援はできる旨を家族様には随時伝えて柔軟性を持つようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や、近隣の掃除等への積極的な参加をしていくように取り組んでいます、現在は施設内での消防訓練などを声掛けを行い参加していただくようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は入居時の契約の際に確認が取れている医療機関へ行き、緊急時は家族様への確認を行いながら対応しています。またかかりつけ医とは常時連携が取れる様に十分な連携が取れています。	あくまでも、本人及び家族の希望を尊重して、これまでのかかりつけ医が継続されている。事業所の協力医療機関での受診を希望する場合には、本人及び家族の納得と同意を得て、受診する様に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1/週の訪問時には共有の看護記録を元に情報提供を行い、緊急時には随時電話連絡にて対応ができる様に連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院との連携はもちろん入退院の面会や、早期退院に向けての相談等は常に主治医や相談員と連絡をとり対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的な処置などが必要になった時、本人様や家族医療従事者との会議で状態を見ながら対応する様にしています。終末期に関してはまだ看取りを検討中です。	病状が重篤で回復の望みが難しい状態になった時の緊急時の対応(同意書)があり、現状ではどこまでの支援ができるかの説明を行い、必要に応じて、本人、家族、医師、関係職員等で方針の共有と支援が話し合われている。現状では、主治医が終末期と判断した段階で、医療機関への入院が考えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練時に初期対応や救急隊が来るまでの処置方法などを学んでいます。訪問看護やリハビリの先生方との意見交換も行いあらゆる対応に向けて勉強しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の連携は地域の副会長さんとの連携を取っていますが、避難場所などは全職員に周知するとともに家族様へも避難場所の地図を作成し郵送しています。	年2回の避難・救出訓練は実施している。防災及び非常災害時対応マニュアルや緊急連絡網を作成している。避難訓練(日中・夜間)や緊急時の対応・応急処置の研修も実施し、避難場所の地図を作成して家族・職員に配布している。町会との連携で地域住民との協力体制もある。スプリンクラーの設置も在る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	安心安全満足の理念のもと、対応しています。個々の人格や尊重を優先し真摯に対応する様に努めています、また声掛けに対して不適切な発言がある際はスタッフ間で注意をするように日々努めています。	マナー研修を定期的実施している。全職員が対人援助サービスの技術と知識を身につけるように取り組んでいる。人生の先輩に対して、尊厳やプライドを損ねない対応の徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の声を一番に考え自己決定ができる環境づくりを行い日々努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われることがありますが、入居者優先を日々念頭に行動するように周知しています。 散歩や外出、買い物は天気の良い日には優先で支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時のケアや日々の生活の中でのおしゃれを身に着けていただけるようネイルやかんたんな化粧などの充実に取り組んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者からのメニューですが、行事や誕生日の際は食材をキャンセルし、ご本人の好物を取り入れた食材にしています。当番制を取り入れ調理の盛り付けや、味付けなどの作業もスタッフと一緒にするようにしています。	献立は職員が作成し、食材は業者が提供している。利用者と職員と一緒に食事をしているので、週単位で食事内容を吟味し、旬で、新鮮で、安全で、美味しい、栄養を吟味した食事提供がある。お誕生日や行事には利用者の希望を取り入れた食事づくりがある。利用者との協働での食事の役割分担もある。	食事を、さらに、「和気あいあいと楽しみながら頂く」ことができないか・今後の課題として取り組むことが期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は配達ですが、栄養管理もできており、十分な食事の提供ができています。 行事や誕生日には入居者様の好物を提供し喜んでいただくようにしています。おやつは手作りで提供する事多くあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必須で、また自身でできる方に対しても確認しながら見守りとチェックは行き、口腔内の清潔保持を保つようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握、排便のコントロールの状況は日々確認し、対応しています。入居前はオムツやリハパンの方でも家族の協力のもと布パンツに変更して対応し、ムレ防止などに努めています。	生活記録の中に、時系列に記録された個人別排泄記録を基に、排泄パターンを把握して、トイレ誘導を促がしている。あくまでも、自立を目指した排泄支援に取り組んでいる。トイレの扉をアコーディオン式にして、下部に隙間を作り、外部から内部のトラブル(転倒)等の気配、見守りが出来るようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	対策としては、水分補給の励行、飲み物の種類を変えて提供したり、ホットパック・腹部のマッサージなどで対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2/週回以上の入浴日は決まっていますが、体調不良時や本人の拒否が強いときなどは無理強いせず希望に添うように体制を取りスタッフは常に入浴準備をしています。	入浴は週2回を基本としているが、利用者の体調や希望には柔軟に対応している。入浴拒否の場合には、日時・職員変更、清拭、足浴、シャワー浴等で対応している。入浴のリラックス時に会話を楽しみ、ゆず湯、温泉入浴剤等での楽しみながらの入浴もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動が少ないと夜間に覚醒時間が多くなっていますので、時間を作り散歩、身体を使う体操などの支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の理解はスタッフが全員確認できるように薬表をいつでも見れる状態にしています。副作用や作用も日々意見交換で確認するようにしています。(内服薬の粉碎、量などの状況確認も主治医との連携で行っています。)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日や、年間行事などのイベント時には入居者の好物を聞きながら提供し楽しみを見いだせる様にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時の外出にはできる限り対応し、季節によってはドライブなども実施しています。	利用者の体調や心身状況を考慮して、近隣の散歩、馴染みの店での買い物、幼稚園児の運動会の見学、お花見、遠足等での季節を感じながらの、地域の人々との交流を目指した支援がある。庭にある農園での四季折々の野菜・花の栽培での外気浴、日光浴等の戸外での支援もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭のトラブルになる事藻あり全員が現金を持つことはできていませんが、買い物などは本人に支払いをしてもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には対応しています。手紙に関しては便せん封筒を提供しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は広く十分なスペースが取れています、食事と寛ぐ場所を分割して生活環境を整えています。 換気は気温や季節に応じて対応、アロマを設置し、リラックスできる様にしている。	玄関前に、「トイレ利用可」の黄色いマークが表示されて通行人に親切心が伝わる。玄関には壁一面の油絵、水槽には金魚、塗り絵、紙細工等が在り、心が和む。採光で、明るく清潔な食堂兼居間は、テレビの前にソファが置かれて、利用者がゆったりと過ごせる。窓越しに、農園の樹木の緑や四季の野菜が観える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中央にソファを設置して思い思いに過ごしてもらえるようにしています。また2階には、最近ですがエアロバイクを置き運動もしています。皆さん楽しんでます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具を持ってきていただき安心できるよう配慮しています。	居室には、利用者の馴染みの物が持ち込まれて、従来の生活の継続性を確保している。家族の写真、テレビ、お位牌、整理タンス等が持ち込まれている。洗面所、ナースコール、スプリンクラー等を設置し、安心・安全を確保した、居心地良く過ごせる環境が在る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る活動を優先し、見守りを行いながら安全な可動域を作り手すりや必要な福祉用具の設置を行っています。(手すり、居室内の棒等)		